令和4年度

佐那河内小学校「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 佐々木　加奈	委員　校長：内田洋一　教頭：佐古晴輝　教務主任：清水愛 特別支援コーディネーター：和田久美子　人権教育主事：川上可南子 低学年推進員：佐々木加奈　国語主任：清水愛 高学年推進員：杉原萌里　算数主任：福田明美

校長　内田　洋一

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】　管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

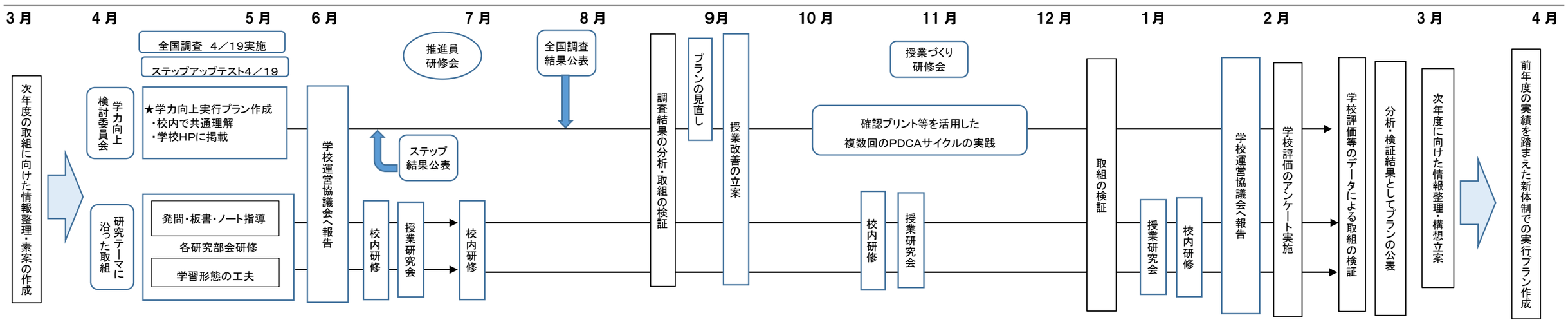
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○獲得した知識や技能を様々な場面で使おうとしている。漢字の読み書きや基本的な計算の習熟については，一定の成果が見られる。 ●学力の個人差が大きい。漢字やローマ字を確実に覚えていなかったり，漢字を文章中で適切に使えていなかったりする。週末読書が十分にできていない学年があり，語彙が少ない児童がいる。苦手と感じている分野に対する知識獲得への意欲が乏しい傾向が見られる。	・漢字の読み書きや正確な計算等の基礎的・基本的な知識・技能を身に付け，意欲的に他教科等や生活の中で使うことができる。 ・語彙数を増やすとともに，正しい言葉や漢字を使って，文章を読んだり書いたりできる。 ・学習した知識・技能が社会でどのように活用されているかを意識することができる。	・小テストを実施したり，振り返りを利用したりし，個々の到達度を把握する。 ・タブレットのドリルアプリ等を活用し，漢字・計算等を繰り返し個々の習熟度の向上を図る。 ・朝の10分間読書や週末読書・並行読書を奨励するとともに，文章表現や漢字を適切に使えているかの点検等，ノートや日記，作文の指導を充実させる。	・取り組みの継続 ・タブレットの効果的な使い方について情報交換する。 ・行事や校外での学習などの機会に，作文や新聞を書く活動を設ける。	・ローマ字入力の練習を何度も行ってきたので，入力には慣れたように思う。 ・漢字や計算の基礎基本が身に付いている児童は生活の中でも使うことができたが，他教科で反映しにくい児童もいた。 ・学習した知識・技能がどこで活用されているか意識することが少しできてきた。	・文章を打ったりまとめたりする活動を取り入れ，効果的な活用方法を選択して利用できるようにさせたい。また，デジタルとアナログのバランスを考え，しっかりと紙に書く活動も実施する。 ・基礎基本の定着・他教科での活用など成果の上がった取り組みを全教員で共有する機会をもつ。 ・できるようになったことを可視化することにより，次への意欲をもたせる。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○既習内容を基にして，新しい考え方を導き出したり，表現できたりする児童が多い。タブレットを活用して，意見をまとめたり，資料を適切に使用して自分の考えを表現したりできるようになってきている。 ●理由付けをする，具体例を挙げる等，筋道を立てて説明したり，文章を書いたりすることに課題がある。要点を整理したり，関連付けたりする等の力にも個人差がある。友達の意見を受けて，それについてどう思うかを述べる力に課題がある。	・目的や相手，意図を意識し，根拠や理由を明らかにして，自分の考えを積極的に話したり，書いたりできる。 ・目的や相手，意図に応じて，内容や方法を考えながら文章や絵・図等を組み合わせたり，資料を適切に使用したりし，自分の考えを表現することができる。 ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめることができる。	・学習の過程を明確にし，児童が自分の考えを筋道立てて話したり，書いたりする時間を設ける。（「話し方・聞き方ナビ」や手引きの利用） ・月2回 NIE の実践，また新聞の教材としての活用や国語科での並行読書等，様々な文章や資料を読む機会を設ける。 ・朝の活動の時間や，授業の中でプログラミング的思考を意識的・意図的に育成する。 ・自分の考えをまとめる時に，プログラミング教育を通じてタブレット上でチャート図に表現する活動を行っていく等の方策を検討する。	・取り組みの継続 ・学活等で，理由を付けて自分の意見を言うことができるようになってきている。	・スモールステップで自分の考えを書く活動を何度も行ってきた。少しずつ考えを書き，組み立てていくことによって，文章の組み立て方について理解できるようになってきた。 ・相手にわかってほしいという気持ちがあるときには，どのように伝えればよいかを考えて意識した発言ができるようになってきた。	・スモールステップを継続し，国語や朝の活動において書く活動を行っていく。 ・話し方・聞き方ナビを活用する機会を増やす。 ・学級活動における合意形成や集団思考などで思考力・判断力・表現力を発揮させることができるようにする。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習習慣が身に付き，落ち着いて話を聞き，真面目な学習態度の児童が多い。与えられた課題について積極的に取り組んでいる。読書を好意的に捉えている児童が多い。ワークやプリント等の間違いを直す活動には，真面目に取り組む。 ●宿題以外の学習に興味をもって取り組もうとする意欲が乏しい。自ら課題を見付けて取り組んだり，学びを振り返ったりするなど，能動的に学習に取り組むことが苦手である。現状に満足し，自分の考えや答えに自信のない児童が多い。	・自分の考えを話す，友達の意見を聞く等の豊かな言語活動を通して，わかり合う喜びを感じることができる。 ・学習課題を自分の課題として具体的に考えて取り組み，学びを振り返ることができる。 ・自分自身を向上させたいという意欲をもち，自主的に学習に取り組むことができる。	・振り返りの視点を提示し，児童が自分の学びを可視化できるようにするとともに，教師が指導に生かすことができるようにする。 ・「家庭学習の手引き」を配布し，学年に応じた時間や内容で家庭学習ができるように家庭と協力して取り組むとともに，家庭学習時間の調査を行い，保護者への家庭学習の重要性の啓発を行う。また，手引きをもとにした自学ノートの公開等も行う。 ・村内のニュースや教科の学習に関連する社会の出来事を学習活動に結び付けるように，日常的に働きかけを行う。	・取り組みの継続	・自学ノートを公開したり，見本を提示して良い点を伝えたりすることによって，自分なりにノートをまとめる児童もいた。 ・自分の考えを話したり書いたりすることへの抵抗が少なくなってきたようだ。 ・学習意欲が高まりにくい児童が一定数いる。自分の学びが進んできたことに気付けず，意欲の持続が難しかった。	・自学ノートへ自主的に取り組む児童を増やしたい。 ・学習に対する興味が，意欲の差につながっているので，学習課題に興味をもたせる工夫が必要である。 ・自信をもって発言・表現できる場を設定する。 ・子どもが興味・関心をもてる課題を設定し，調べ学習をしていく。できるようになったことを教師が認め，賞賛することにより，意欲を持続させる。

令和4年度　学力向上ロードマップ